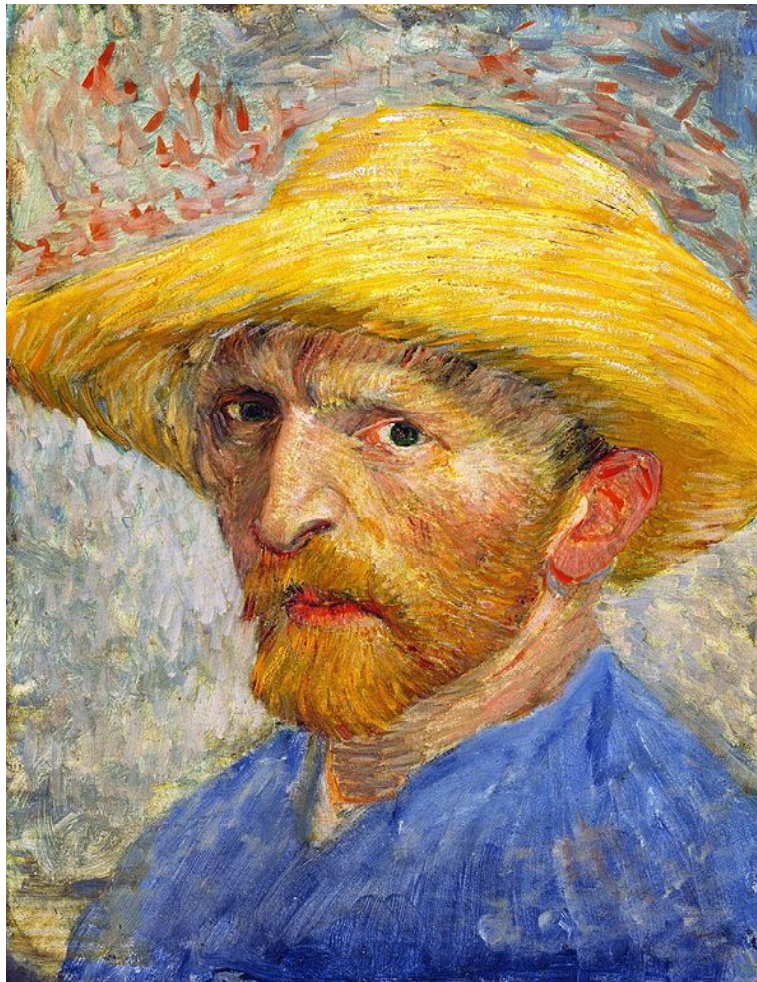


「ファン・ゴッホの絵画と俳句」



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Van_Gogh_Self-Portrait_with_Straw_Hat_1887-Detroit.jpg

現在では作品によっては1点数10億円と、極めて高い評価を得ているファン・ゴッホ（1853-1890）。しかし生前に売れた絵はたった1枚『赤い葡萄畑』だけで、しかも、購入された価格は400フラン（当時1フラン＝1,000円として約40万円）。

貧しさと精神疾患に苦しみ37歳でピストルで自ら命を絶ちました。

ゴッホが画家を志したのは27歳になった1880年のこと。

それから1890年までのたった10年間で約860点もの油絵を生み出しました。

なんと4.25日で1点以上の油絵を制作していた計算になり、驚異のパワーです。

今回から何回かのシリーズで西洋美術と俳句の組み合わせを試みます。

第1回の今回は『ジャガイモを食べる人々』『ひまわり』『自画像』『カラスのいる麦畑』など強烈な色彩と大胆な筆触によって独自の画風を確立し、人々を魅了する名画を残したフィンセント・ウイリアム・ファン・ゴッホ。

そんな彼の作品を制作時期順に掲載し、その作品に合う俳句を選んでみました。

お楽しみ下さい。

作品の下に制作時期 | 制作地 | 作品詳細 | 所在を記載しています。

1. ジャガイモを食べる人々



<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Van-willem-vincent-gogh-die-kartoffelesser-03850.jpg>

1851年4月 | オランダ・ニューネン | 油彩、キャンバス、82.0 x 114.0 cm | ファン・ゴッホ美術館

ゴッホの初期の作品のなかでもっともよく人に知られた傑作。

暗いランプの明かりのもとで、貧しい農民たちが1日の仕事を終え馬鈴薯とコーヒーだけというあまりにつつましい食卓に向かっている。

ゴッホは本作を制作した後に「僕はこの絵で何よりも、ランプの下で皿に盛られた馬鈴薯を食べる人々の手が、大地を耕やしていた手であることを明確に表現することに力を注いだ」との言葉を残しています。

ゴッホが本格的に画家を志す決意を、生活費を援助するなどして支え、最大の理解者であった弟テオに伝えた後、数年後に制作。

田の母よぼくはじゃがいもを煮ています

清水哲男(しみず てつお) (1938-)

<季語>じゃがいも、馬鈴薯(ばれいしょ)で初秋

アンデス原産でナス科の1年生作物。

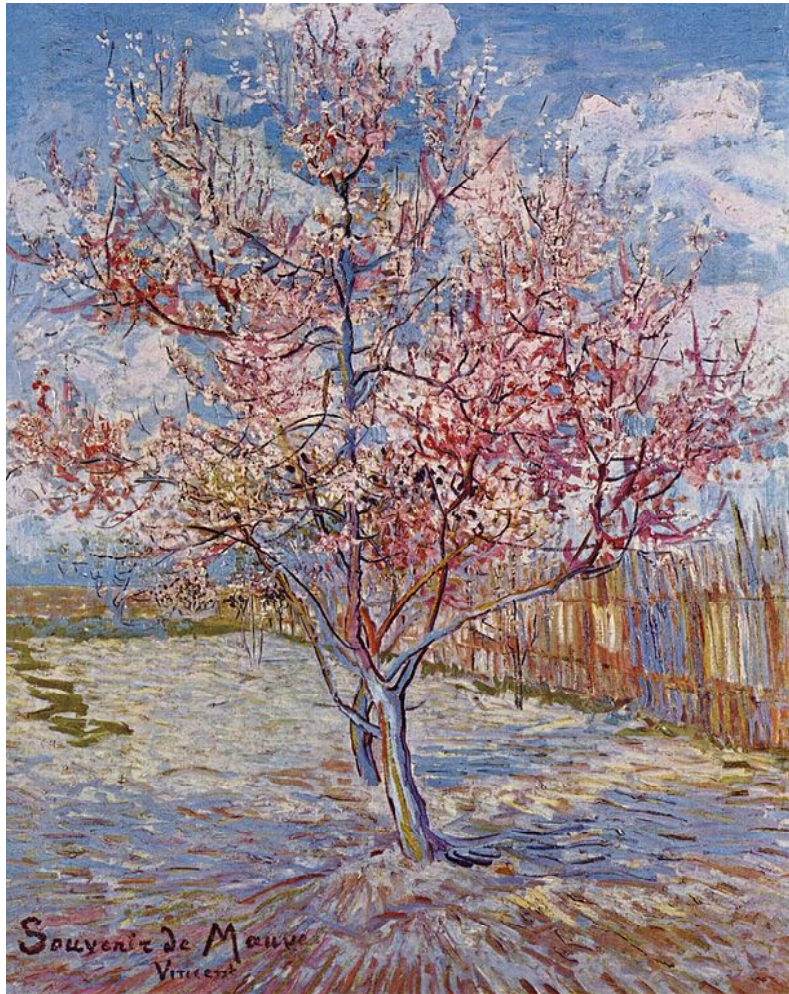
ジャカルタから渡来した芋=ジャガタライモを略した呼び方。

馬鈴薯は薯(いも)の形が馬につける鈴に似ていたことから。

ヨーロッパではジャガイモは当初その見た目の悪さ(現在のものより小さく黒かったこと)と聖書に載っておらず、種芋で増えるという理由で「悪魔の作物」として嫌われていました。

しかし17世紀にヨーロッパ各地で飢饉が起きると、収穫される部分が地下にあるため低温に強く、冷涼な気候のヨーロッパで栽培される他の主要な作物よりも冷寒な気候に耐えること、痩せている土地でも育つことなどから広く栽培されるようになりました。

2. 花咲くモモの木（モーヴを思い出して）



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vincent_Willem_van_Gogh_113.jpg

1888年3月 | 南フランス・アルル | 油彩、キャンバス、73.0 x 59.5 cm | クレラー・ミュラー美術館

1888年2月21日、ゴッホはアルルに到着しました。

南仏の春の来かたは早く、花がいっせいに咲きだし、青い空のもとに桃が枝いっぱいにつける果樹園は、アルルの喜びを表現すべき絶好のモチーフとなったようです。

野に出れば人みなやさし桃の花

高野素十(たかの すじゅう) (1893-1976)

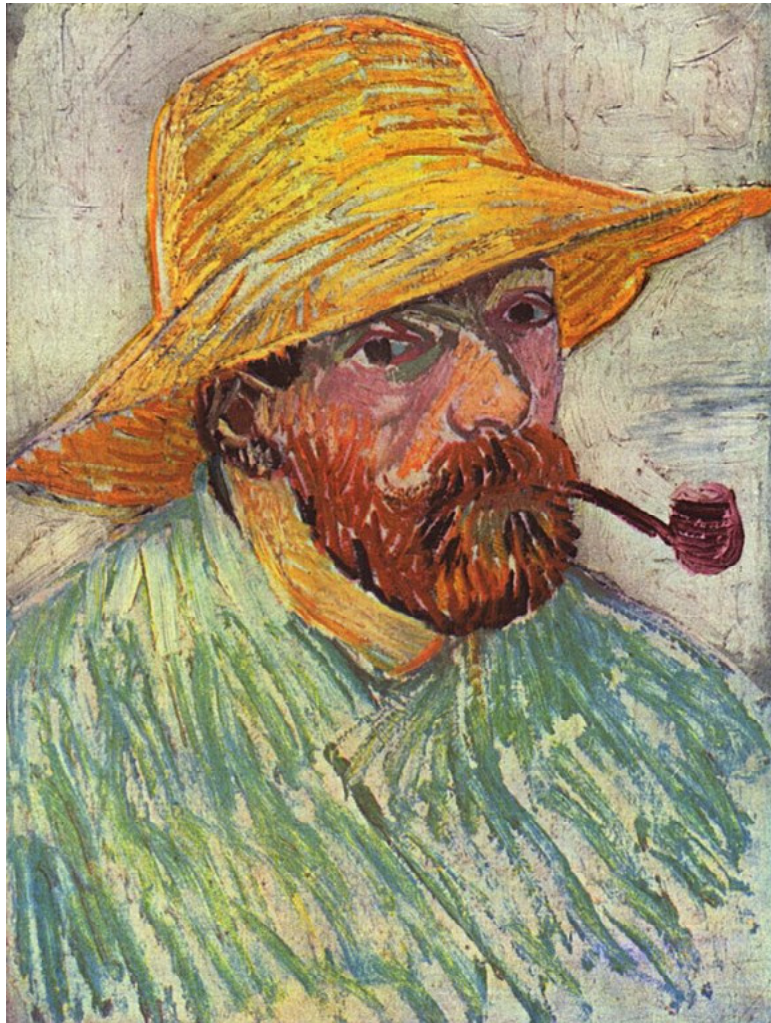
<季語> 桃の花で晩春

桃は、バラ科サクラ属の落葉低木で原産地は中国。

開花時期は3～4月。

桃の字の「兆」は“妊娠の兆し”を意味していて、桃が「女性」や「ひな祭り」と関連性あるのはこのことからとされています。

3. 自画像 (パイプをくわえ麦わら帽をかぶったもの)



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vincent_Willem_van_Gogh_110.jpg

1888年8月 | 南フランス・アルル | 油彩、厚紙にキャンバス、42.0 x 30.0 cm | ファン・ゴッホ美術館

オランダとベルギーで筆をとっていたころは苦難続きだった暮らしを反映して、そのころの自画像は背景も衣装にもダークな色合いが目立ち重苦しい雰囲気が漂っていました。ところが、フランスで弟・テオとの暮らしが始まった後は、印象派の影響を受けたこともあり、比較的軽装のスタイルが描かれるようになりました。ゴッホの多くの自画像のなかでも、麦わら帽子にパイプ、明るい筆触でもっとも気軽に描かれた作品とされています。

夏帽子頭の中に崖ありて

車谷長吉(くるまたに ちょうきち) (1945-2015)

<季語>夏帽子で三夏

※俳句において夏は立夏から立秋の前日までの約3ヶ月間で、爽やかな暑さの初夏、梅雨どきの蒸し暑さの仲夏、炎暑の晩夏を指し、夏全体で使われる季語は三夏となります。

夏帽子は麦稈帽(むぎわらぼう)、パナマ帽など夏季に用いる帽子の総称。頭の中に崖があるという表現はゴッホの作品に通じるものを感じます。

4. ローヌ川の星月夜



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Starry_Night_Over_the_Rhone.jpg

1888年9月 | 南フランス・アルル | 油彩、キャンバス、72.5x92.0cm | オルセー美術館(フランス・パリ)

恋人たちを前景にもつ星々のきらめくこの作品は、繊細な情緒にあふれています。ゴッホはアルルに到着してすぐ、夜の美しさを何度か描こうとしてテオに手紙を送っています。しかし、彼がようやく夜のテーマを手がけたのは9月になってからのことでした。そのかわり、この地方では星のもっとも美しい月です。伝説によればゴッホは帽子にローソクを立てて夜の戸外で制作したといわれていますが、実際は、ガス燈の光で制作したようです。いずれにせよ夜の美しさに包まれた詩人の姿です。

カジノ裏とびきりの星月夜かな

細谷唳々(ほそや りょうりょう) (1948-)

<季語>星月夜で三秋

古書に「星月夜」は「闇に星の多く明るきをいふなり。月のことにはあらず」とあり、俳句での「星月夜」は月のない夜空が星明りで月夜のように明るいことをいいますが、現在生活ではめったに経験できません。

秋の夜空は空気が澄んで星が見えやすいわりには、明るい星が少なく、その明るさは主として天の川の輝きからきています。

5. 赤い葡萄畑



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Red_vineyards.jpg

1888年11月 | 南フランス・アルル | 油彩、キャンバス、75.0 x 93.0 cm | プーシキン美術館 (ロシア・モスクワ)

フランス・アルルの葡萄畑で、夕方、人々が農作業をする様子を描いていて、太陽の光が水面に反射し、秋を感じさせる赤と黄色に変化した葡萄畑に調和しています。

ゴッホが生存中に売れた唯一の作品で、ゴッホが死去する5ヶ月前に、ブリュッセルでの展覧会「20人会展」に出品され、女流画家アンナ・ボックによって購入されました。

価格は400フラン（当時1フラン＝1,000円として40万円）と伝えられています。

勝沼や馬子も葡萄を食ひながら（馬子＝まご）

松尾芭蕉(まつお ばしょう) (1644-1694)

<季語> 葡萄で仲秋

ブドウ科の蔓性落葉低木。

古くから世界各地に存在し、紀元前2,500年頃のエジプト壁画などに、葡萄の栽培や葡萄酒の醸造の様子が描かれていて、世界で最も古くから栽培され、最も多く生産されている果物。

日本でも鎌倉時代初期に甲州国（現在の山梨県）勝沼で栽培が始められています。

芭蕉の句はその勝沼種の葡萄を詠んだものです。

また、フランスでは「ぶどう畑と美人は手がかかる」ということわざがあります。

6. ひまわり (15本のひまわり)



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Van_Gogh_-_Vierzehn_Sonnenblumen_in_einer_Vase1.jpeg

1888年12月 | 南フランス・アルル | 油彩、キャンパス、100.5x76.5cm | 東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館 (東京都新宿区)

1888年～1889年にかけてゴッホは7点のひまわりを描いています。ひまわりでアトリエを飾り、アルルにゴーギャンを迎える準備をしていたようです。ひまわりについてゴッホは手紙のなかでは思い入れも語っていません。しかし、結果としてひまわりはゴッホの代名詞となりました。形状、色彩、太陽へと向かう性質、あらゆる点で彼の内面の象徴だったのです。さまざまな色を背景として、強烈な変化に富んだ黄。それはゴッホの太陽への、生命への賛歌をうたいあげています。このひまわり (15本のひまわり) は1888年12月の「耳切り事件」の直前に描かれたとされ、1987年3月に安田火災海上 (現・損害保険ジャパン日本興亜) が3992万1750米ドル (当時の為替レートで約58億円) で購入し、話題になりました。

向日葵や信長の首斬り落とす

角川春樹 (かどかわ はるき) (1942-)

<季語> 向日葵 (ひまわり) で晩夏

キク科の1年草で北アメリカ中西部原産。盛夏の太陽の下、太い茎が2-4メートル直立し、茎頂に15センチほどのあざやかな花を咲かせます。いかにも生命力旺盛で、夏の化身のような花です。

7. 自画像(耳に包帯をしたもの)

8. 自画像(包帯をしてパイプをくわえた自画像)



7. https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Van_Gogh_-_Selbstbildnis_mit_verbundenem_Ohr.jpeg

1889年1月 | 南フランス・アルル | 油彩、キャンバス、60.0 x 49.0 cm | コートールド・ギャラリー(イギリス・ロンドン)

8. https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vincent_Willem_van_Gogh_106.jpg

1889年1月 | 南フランス・アルル | 油彩、キャンバス、51.0x45.0 cm | チューリッヒ美術館(スタブ・ロス・ニコラス・コレクションより貸与?)

耳切り事件は画家ポール・ゴーギャンと同棲していた1888年に起こりました。

ゴッホは自分の耳を切り落とし、それを持ったまま売春宿に向かい、ラシェルという娼婦に「これを大事に持っていてくれ」と言って切り取った耳を手渡したのです。

一説によると、後のこの異常な行動は、ゴーギャンに自画像の耳が変だと指摘されたことが原因だったともいわれています。

この事件以降、ゴッホは近所から危険人物として扱われ、精神病院に収容するように請願書まで作られ、入院します。

耳切りの悲劇によって入院し退院したあと、手ならしに静物を描き、さらに耳にほうたいをした自画像を2点描いています。

同じ時期に描かれた2点ですが、背景と肖像の色のちがいにゴッホの心の振幅を感じとれます。

ヴァンゴッホ冷たき耳を截りにけり (截りにけり=きりにけり)

相生垣瓜人(あいおいがき かじん) (1898-1985)

<季語>冷たき、冷たしで三冬

「冷たし」は冬の寒さのことに強い感じ。

「寒さ」は大気の温度からきますが、「冷たし」は手で触れた場合の感覚的な冷えをいいます。

9. オレンジ、レモンと青い手袋のある静物



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Van_Gogh_-_Stilleben_mit_Orangen,_Zitronen_und_blauen_Handschuhen.jpeg
1889年1月 | 南フランス・アルル | 油彩、キャンバス、47.3x64.3cm | Paul Mellon 夫妻コレクション (バージニア州アッパーウァイル)

病気の発作前後に描かれたとは考えられないほど明るい静物。
糸杉の黒っぽい緑、オレンジの橙色、レモンの鮮明な黄色、手袋の紺などが淡いバックの上に描かれています。

籠の編目の線、果物の輪郭なども迷いのない明確な線です。

身近で現実的な題材、物そのものに迫り、それらを描くことによって画家としての職業の安定感とよろこびを得ようとしたゴッホの最もすぐれた静物画の一つ。

童話のなかの 老人となつて レモンをちぎる

吉岡禅寺洞(よしおか ぜんじどう) (1889-1961)

<季語>レモン、檸檬で晩秋

インド原産の柑橘類で初夏に実と同じような香り高い五弁の花を咲かせます。

秋に実る果実は香気を減じないように青いうちに採取して、いわゆるレモン色に色出しします。

10. 静物：バラのある花瓶



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Roses_-_Vincent_van_Gogh.JPG

1890年5月 | フランス・サン・レミ | 油彩、キャンパス、71.0x90.0cm | ナショナル・ギャラリー(ワシントンD.C.)

ゴッホはサン・レミ時代の最後の作品として「静かな持続的な熱情」を持って4点の花を描いています。

2点はいちはつの花束で、2点は白いバラでした。

ひまわりをあれほど愛したゴッホが白いバラを題材としたことは、次のオーヴェール時代に向けて心境の変化があったのでしょうか。

このシンプルでシックな色調もいいです。

アルルでの黄、サン・レミでの緑、オーヴェールでの青、これらの主調色以外に使った白は、サン・レミからオーヴェールへのつなぎ目だったようです。

咲き切つて薔薇の容を超えけるも（容＝かたち）

中村草田男(なかむら くさたお) (1901-1983)

<季語> 薔薇で初夏

バラ科バラ属で開花時期は5～11月ですが、夏は暑いのでひと休みします。

古代から薔薇は繁栄と愛の象徴とされました。

ギリシャ神話では愛と美の女神「アフロディーテ」が海から誕生した時に大地がそれと同じくらい美しいものとして、薔薇を作ったとされています。

また、近代薔薇の主流である四季咲き大輪種は、1867年フランスの園芸家キョーの作出した「ラ・フランス」により、その地位を確立しました。

以来交雑改良を重ね、国際的に登録された名花だけでも2万種近くに及び、芳香とともに観賞花の王座を独占。

世界的にこれほど芸術の場に登場する花はなく、古来どれだけの多くの男性が女性に薔薇を捧げ、愛を告げたことでしょうか。

1 1. カラスのいる麦畑



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vincent_van_Gogh_\(1853-1890\)_-_Wheat_Field_with_Crows_\(1890\).jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vincent_van_Gogh_(1853-1890)_-_Wheat_Field_with_Crows_(1890).jpg)
1890年7月 | フランス・オーヴェル・シュール・オワーズ | 油彩、キャンバス、50.5x103.0cm | ファン・ゴッホ美術館

「また帰ってきて仕事にとりかかる一でも手から筆が落ちそうになる一ぼくはぼくのぞんでいることを知っているのだが、それでもまだ3点の大作を仕上げる。それは嵐の空のもとの途方もない麦畑の広がりを描いた作品で、ぼくは十分に悲しみと、極度の孤独を表現しえたようです」(テオへの手紙)。ゴッホのテオへの手紙によれば明らかに終末を予見していました。

「先の見通しは暗い。ぼくは未来を幸福な光のなかに見ることはまったくできません。」

「ぼくの生活は根こそぎになり、ぼくの足どりはよろめいています。」

言葉以上に彼のこの作品は絶望をはっきりと予告していたのです。

「麦刈り」は聖書において、しばしば人の死の象徴として語られており、ゴッホもそのようにとらえて描いたのでしょう。

ゴッホが見し麦と鴉に阿蘇で遇ふ (鴉＝からす)

津田清子(つだ きよこ) (1920-2015)

<季語> 麦畑、麦で初夏

ムギ科の1.2年生栽培植物。

初夏、青い麦が黄熟して刈り入れを待つばかりの「麦の秋」。

ゴッホの絵にも描かれていますが、それは太古の野性が甦(よみがえ)ったような空間です。

この絵が絶筆であるとの記述が出はじめたのは1908年、ドイツ・ミュンヘンの画廊などを巡回したファン・ゴッホ展のカタログで、当時は「雷雨」のタイトルが付けられていました。

私も詠んでみました。

麦黄熟からす蹴散らせ日雷 (日雷＝ひかみなり)

白井芳雄

<季語> 日雷で三夏

今回は「ファン・ゴッホの絵画と俳句」をお届けしました。

全体を通じての参考文献、出典：『現代世界美術全集 8 ゴッホ』（集英社）（1970年）
1371-536008-3041

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修
『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）
ISBN978-4-06-128972-7

『角川俳句大歳時記 春』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621031-1 C0392

『角川俳句大歳時記 夏』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621032-X C0392

『角川俳句大歳時記 秋』（角川学芸出版）
ISBN978-4-04-621033-3 C0392

『角川俳句大歳時記 冬』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621034-6 C0392

白井明大・有賀一広
『日本の七十二候を楽しむー旧暦のある暮らしー』（東邦出版）
ISBN978-4-8094-1011-6 C0076

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒 530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3 F
TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com